

加齢と老化・リハビリテーション

Aging/Senescence/Rehabilitation

コース責任者
神経内科教授 長谷川 泰弘

1. 学習目標

1) 一般目標 (GIO)

- (1) 加齢にともなう生理機能の変化について理解し、高齢者における疾患の診断・治療について説明できるようになるために、高齢者における病態・症候・治療上の特徴について学ぶ。
- (2) 高齢者の介護や在宅療法の意義・方法・問題点、高齢者の死について説明できるようになるために、要介護患者の評価法、高齢者をとりまく社会環境・社会福祉・在宅療養におけるプライマリーケア・ターミナルケア・高齢者の死生観について学ぶ。
- (3) リハビリテーションの適切な方法を選択し、その理由を説明できるようになるために、リハビリテーションの概念・適応を理解し、主な疾患・病態についてのリハビリテーションを学ぶ。

2) 行動目標 (SB0)

【加齢と老化のユニット SB0】

- (1) 高齢者の生理機能の変化について説明できる。
- (2) 高齢者における病態の特徴、高齢者と QOL、CGA について説明できる。
- (3) 高齢者に特有な症候・疾患について説明できる。
- (4) 高齢者に対する薬物療法の注意点について説明できる。
- (5) 要介護患者についての退院計画が立案できる。
- (6) 在宅療養における地域医療機関の役割と連携について説明できる。
- (7) 高齢化社会における介護環境、社会福祉など地域介護力について説明できる。
- (8) 在宅療養を阻害する因子および在宅療養における問題点を説明できる。
- (9) 在宅療養におけるプライマリーケアについて説明できる。
- (10) ターミナルケア、ホスピスについて説明できる。
- (11) 介護サービス関連の法制度が説明できる。

【リハビリテーションユニット SB0】

- (1) リハビリテーションの概念と適応を説明できる。
- (2) リハビリテーションチームの構成を理解し、医師の役割を説明できる。
- (3) 障害を機能障害、能力低下、社会的不利に分けて説明できる。
- (4) 国際障害分類と国際生活機能分類の概要を説明できる。
- (5) 日常生活動作 (ADL) の評価ができる。
- (6) 理学療法、作業療法と言語療法を概説できる。

- (7) 主な歩行補助装具、車椅子（歩行と転倒）を概説できる。
- (8) 運動器（四肢）のリハビリテーションの概念と適応を説明できる。
- (9) 脊髄損傷のリハビリテーションの概念と適応を説明できる。
- (10) 高齢者のリハビリテーションの概念と適応を説明できる。
- (11) 小児・未熟児のリハビリテーションの概念と適応を説明できる。
- (12) 循環器のリハビリテーションの概念と適応を説明できる。
- (13) 呼吸器のリハビリテーションの概念と適応を説明できる。
- (14) 頭部外傷によるリハビリテーションの概念と適応を説明できる。
- (15) 脳血管障害のリハビリテーションの概念と適応を説明できる。
- (16) 熱傷のリハビリテーションの概念と適応を説明できる。
- (17) 糖尿病のリハビリテーションの概念と適応を説明できる。

2. 学習内容

本コースでは、加齢、老化、リハビリテーションというキーワードで健康、疾病に関する諸問題とその対応について学ぶ。したがってその内容は各診療科横断的で、臓器別系統講義ではとらえることのできない幅広いものとなっており、ヒトの一生、障害を持つ人への対応や支援などを含めた包括的な捉えかたを学んでほしい。疾患への対応のみならず、高齢者や障害者の支援に必要な、医療、介護、福祉にかかわる法令や地域医療についても学ぶ。

現在わが国は、いかなる国も経験したことのない超高齢化社会へと急速に進みつつある。加齢と老化ユニットでは、高齢者の病態の特徴、高齢者をとりまく療養環境の現状と問題点、ターミナルケアなどについて学ぶ。リハビリテーションユニットでは、障害のある人たちが立ち直り「再び人間らしく生きる」こと、すなわち「全人間的復権」のために、どのようなアプローチをすべきか、その必要なことについて学ぶ。

3. 成績評価

(ア) 総括的評価

定期試験（筆記試験）での客観的評価を行う。

(イ) 形成的評価

評価結果を学生に呈示し、フィードバックする。

下記の評価項目を総合して総括評価する。

評価項目	実施回数	評価割合	備考
定期試験	2	90(%)	前期・後期期末試験期間中に実施する。
授業態度		10(%)	出席状況、学習状況を評価する。
合計		100(%)	

4. 教科書・参考書

『老年医学テキスト』 社団法人「日本老年医学会」編

発行所：株式会社メディカルビュー社

『老年病のとらえかた』 大内尉義 編 発行所：文光堂

『目でみるリハビリテーション医学』 上田 敏著（東京大学出版会）

『狭心症・心筋梗塞のリハビリテーション 改訂第3版』

木全心一、斉藤宗靖 編著（南江堂）

『脳卒中治療ガイドライン 2015』 日本脳卒中学会 脳卒中ガイドライン委員会編集（協和企画）

『標準整形外科学（第12版）』 松野文夫，中村利孝（医学書院）

『標準リハビリテーション医学（第3版）』 上田敏（医学書院）

5. 準備学習

G I O、S B Oを読んで学習内容を把握して授業に臨むこと。

6. オフィスアワー

所属	役職	氏名	時間	場所	連絡先
神経内科学	教授	長谷川 泰弘	火曜日・金曜日 9:00～17:00	医学部本館 1階 内科医局	内線 3150 mail : shinnai
整形外科学	教授	仁木 久照	火曜日 17:00～18:00	医学部本館 4階 整形外科医局	内線 3433

メールアドレスは@marianna-u.ac.jpが省略